

文部科学省委託事業

青少年体験活動総合プラン 小学校長期自然体験活動支援プロジェクト 「小学校長期自然体験指導者養成講習会」

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
[後援] 熊本県教育委員会 熊本県キャンプ協会
[期間] 平成21年 7月18日(土)～20日(月)
2泊3日 (前期)
平成21年11月21日(土)～23日(月)
2泊3日 (後期)



- [参加状況] (前期)
学生8名, 一般3名, 教職員3名, 社会教育関係者6名, 合計20名
内訳 【性別】男性13名, 女性7名
【県別内訳】熊本県 16名, 長崎県 2名, 大分県 1名, 鹿児島県 1名
(後期)
学生9名, 一般5名, 教職員7名, 社会教育関係者15名, 合計36名
内訳 【性別】男性26名, 女性10名
【県別内訳】熊本県23名, 福岡県 4名, 長崎県 3名
佐賀県 3名, 大分県 1名, 宮崎県 2名

[講師]

(前期)

- 古賀 倫嗣 氏 (熊本大学教育学部 教授)
鈴木 文孝 氏 (兵庫県立南但馬自然学校 主任指導主事)
淵上 勝躬 氏 (熊本県キャンプ協会 理事)
深川 芳枝 氏 (日本赤十字社熊本県支部 指導員)
西田 秀美 氏 (熊本県ネイチャーゲーム協会 理事)
永原 彰子 氏 (財団法人 阿蘇グリーンストック 環境教育担当)
国立阿蘇青少年交流の家 企画指導専門職, 事業推進係長

(後期)

- 古賀 倫嗣 氏 (熊本大学教育学部 教授)
高見 英明 氏 (兵庫県立南但馬自然学校 主任指導主事兼指導課長)
寺崎 真治 氏 (熊本市キャンプ協会 理事長)
深川 芳枝 氏 (日本赤十字社熊本県支部 指導員)
西田 秀美 氏 (熊本県ネイチャーゲーム協会 理事)
永原 彰子 氏 (財団法人 阿蘇グリーンストック 環境教育担当)
国立阿蘇青少年交流の家 企画指導専門職

1 趣 旨

小学校が広く長期の自然体験活動や生活体験活動を行うことができるようにするとともに、活動の教育効果や安全性を一層高めることができるよう、プログラムの計画や活動時の指導や助言を的確に行う指導者を養成するために、本事業を実施した。

2 目 標


- (1) 子どもたちに自然体験活動が必要であることがわかる。
- (2) 自然体験活動の基礎的な知識・技術を身につけることができる。
- (3) プログラム作成の基本的な視点がわかる。



3 事業の実際

(1) 研修プログラム

① 日程 (参考として後期分を掲載)

	11/21 (土)	11/22 (日)	11/23 (月)
6:30		起床・洗面	起床・洗面
7:15		朝食	朝のつどい
8:00		8:30～	朝食
午前	受付開始 9:00 開会行事 9:30 A「実習」1.0h 自然体験活動の技術 企画指導専門職 福留 隆二 B「講義」1.0h 教育課程と体験活動の 関連性① 講師 南但馬自 然学校 高見 英明 氏	G「講義・演習」1.0h 体験活動の指導法Ⅰ-② 財)阿蘇グリーンストック 環境教育担当 永原 彰子氏 9:30～ H「実習」3.0h 安全管理 救命救急法 講師 日本赤十字社 熊本県支部指導員 深川 芳枝 氏	L「講義・演習」3.0h プログラムの企画・立案 モデルプログラムの作成 兵庫県立南但馬自然学校 指導主事 高見 英明 氏
12:00	昼食	12:30～昼食	昼食
午後	C「講義」2.0h 学校教育における 体験活動の意義 講師 熊本大学教育学部教授 古賀 倫嗣 氏 D「講義・演習」2.0h 体験活動の指導法Ⅰ-① 講師 熊本県ネイチャーゲー ム協会 西田 秀美 氏 E「講義」1.0h 教育課程と体験活動の 関連性② 高見 英明 氏	13:30～ I「演習」2.0h 自然体験活動の技術 PAゲーム 企画指導専門職 中村 泰司 15:30～ J「実習」3.0h 自然体験活動の技術 野外調理 講師 熊本市キャンプ協会 理事 寺崎 真治 氏 夕食	M「講義・演習」2.0h モデルプログラムの発表 プログラムの評価 企画指導専門職 福留 隆二 八波 清彦 中村 泰司 閉会行事 15:10 解散 15:30
18:00	夕食 後片づけ		
夜間	休憩・移動	入浴	
19:20	F「講義・演習」2.0h 体験活動の指導法Ⅱ 企画指導専門職 福留 隆二	K「講義」2.0h 安全管理 危険予知トレーニング等 企画指導専門職 八波 清彦	
21:20	入浴	(情報交換会)	
22:30	就寝準備	就寝準備	
23:00	就寝	就寝	

② 指導者養成カリキュラムについて（全：全体指導者に必要，補：補助指導者に必要）

N o.	項 目	ねらい	内 容	時 間
1	学校教育における体験活動の意義 (全・補)	今日の社会的環境，児童の現状，発達段階を踏まえ，体験活動の意義と必要性，教育的効果を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年を取り巻く社会的環境や青少年の現状等を踏まえ，青少年の現代的課題と青少年問題について理解する。 ・体験活動の教育的意義や学力との関係について理解する。 ・発達段階に配慮した体験活動の在り方と指導者に求められる役割や資質を理解する。 	講義 2
2	教育課程と体験活動の関連性 (全・補)	教育課程における体験活動の意義と教育課程の編成に体験活動を組み込む方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における体験活動の位置づけを理解する。 ・長期集団宿泊体験活動の指導上の留意事項や運営上の問題を理解する。 ・学校における集団宿泊体験活動の実際（生活指導を含む）を理解する。 	講義 2
3	プログラムの企画立案 (全)	自然体験活動におけるプログラムの企画立案から評価までの一連の流れや企画立案の方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人，社会，文化のかかわりや青少年教育施設との連携，地域の人材の活用など，企画立案時に留意することを理解する。 ・教育施設に即した体験活動事業プログラムの事例研究を行う。 ・企画立案から評価までの流れと各段階で留意することを理解する。 	講義 演習 5
4	自然体験活動の技術（全）	自然体験活動の技術を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で生活・活動を行う上で必要とされる基礎的な技術を習得する。 	実習 5
5	自然体験活動の技術（全）	体験活動の基礎的な指導方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係をつくることや環境保全に興味・関心を持つことなど，目的に応じた指導方法を理解する。 ・体験活動の指導法の演習を行う。 	講義 演習 5
6	安全管理 (全)	安全管理の視点や安全計画の立案について理解するとともに，救命救急法の基本技術を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動における安全管理の基本的な考え方を理解する。 ・活動前と活動中の安全管理及び事故への対応方法を理解する。 	講義 2 実習（救命救急法） 3
時間計				24

(2) 目標達成のための工夫点

① 外部講師の活用

前後期とも，「教育課程と体験活動の関連性」「プログラムの企画立案」について，南但馬自然学校の指導主事を講師とし，指導を依頼した。

兵庫県においては，以前から全ての小学校で1週間程度の長期自然体験活動が義務付けられており，指導の技術や知識が蓄積されている。そこで，その技術や知識を生かしていただくことで，教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供できる指導者の養成を図った。



講義の様子

また，「学校教育における体験活動の意義」では大学教授に依頼し，「自然体験活動の技術」「体験活動の指導方法」「安全管理」では，キャンプ協会やネイチャーゲーム協会，

財団法人阿蘇グリーンストック、日本赤十字社から講師を招き、それぞれの内容に応じた効果的な講義・演習・実習を行った。

② 「何をする」という視点ではなく、「何のために」という視点の重視

「体験活動の指導方法」や「プログラムの企画立案」の講義・演習において、アクティビティやプログラムについて考えさせる際、「何のためにするのか」という視点を常に意識させるようにした。



ただ単に楽しいだけのアクティビティの設定やプログラム作成に終始することなく、子どもたちが到達すべき目標はいったい何か、ということを考えて上で、アクティビティの設定やプログラム作成にあたるように指導した。また、それを「体験活動の指導方法」や「プログラムの企画立案」の振り返りの視点にした。

③ 企画指導専門職等職員による指導

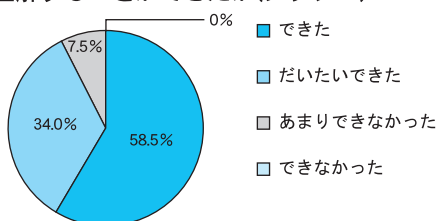
本講習会にあたっては、前期には職員2名、後期には職員3名が分担をして、指導・助言を行った。

例えば後期については、「体験活動の指導法」と「自然体験活動の技術」、「安全管理」各2時間の指導に、専門職が一人ずつあたった。また、最終日の「プログラムの評価」について、3人の専門職がそれぞれ役割分担し、各グループごとに立案されたプログラムを検討する時間に際して、「目標との関連性」を見る立場と「安全管理」を見る立場、「時間的流れ等」を見る立場に分かれてコメントを行うことによって焦点化した指導を行うようにした。

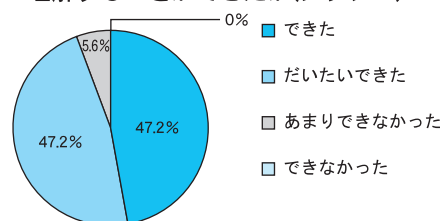
4 結果

アンケート調査の結果は次のとおりである。

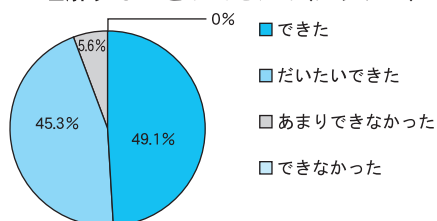
(1) 学校教育における体験活動の意義について、理解することができたか(グラフ1)



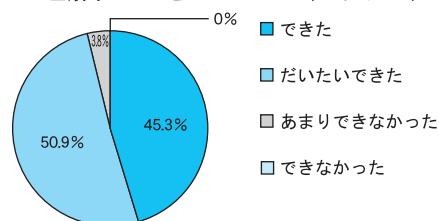
(2) 教育課程と体験活動の関連性について、理解することができたか(グラフ2)

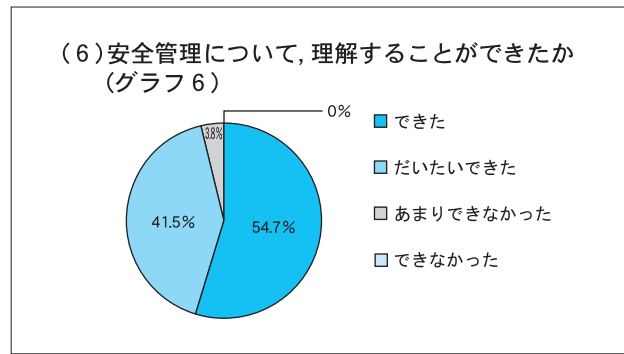
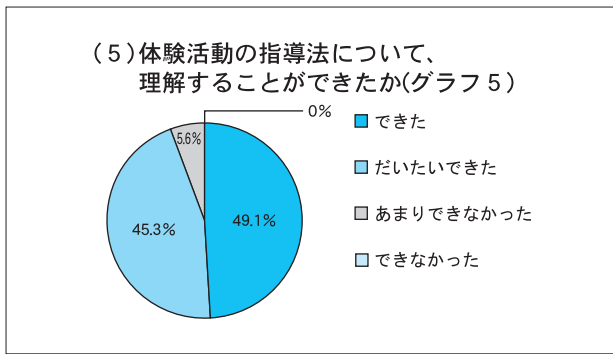


(3) プログラムの企画立案について、理解することができたか(グラフ3)



(4) 自然体験活動の技術について、理解することができたか(グラフ4)





(7) 講習会についての意見や感想 (アンケート記述)

- 講義の内容が分かりやすく、何をねらいにしているのかが伝わりよかった。
- 具体的に考える場面が多く設定しており、よかった。また、知らない人と班を組むなどして、いろいろな人とコミュニケーションを図ることができた。
- 実践的な野外活動における技術や危機管理についてもっと研修する必要があると思う。
- 教育課程に自然体験活動をどう組み込んでいくかや教科との関連について研修する必要がある。

5 成果と課題

(1) 成果

- ① アンケート結果によると、参加者の意識がもともと高かったこともあり、事業全般についての満足度は高かった。大学教授や指導主事、本施設企画指導専門職、自然体験活動に精通している方々の講義・演習も分かりやすかったことが参加者のアンケートから読み取れた。講義・演習が一般的に参加者の実態に即して分かりやすい内容であったと考える。(グラフ1～6, アンケート記述)
- ② 「プログラムの企画立案」については、班ごとに話し合いながらプログラムを設定し、模造紙にまとめて発表するような形式をとった。班編成においては、意図的に各班に学校の教員や野外活動等の指導経験者、学生などが均等に入るようにした。そのような工夫もあり、班での話し合いが深まった。参加者からも班での意見交換が参考になり、有意義だったとの意見が聞かれた。(グラフ3, アンケート記述)
- ③ 「体験活動の指導方法」や「プログラムの企画立案」の講義・演習において、アクティビティやプログラムについて考えさせる際、「何のためにするのか」という視点を常に意識させるようにした。それにより、「プログラムの企画立案」での班ごとの演習においても、参加者が子どもたちの到達すべき目標を考えた上で、アクティビティの設定やプログラム作成にあたるようになった。(グラフ3・5, アンケート記述)
- ④ 本講習会にあたっては、前後期のべ5名の本施設企画指導専門職等の職員が、「体験活動の指導法」と「自然体験活動の技術」、「安全管理」の指導にあたった。このことは、本施設職員の指導力を高める一つの機会にもなった。

(2) 課題

- ① 九州各県の参加者を集め、24時間の講習を2泊3日で実施しているため、講義・演習の時間設定や、外部講師の講義・演習の組み方を一層工夫しなければならない。
- ② 本施設の企画指導専門職等の職員が講義・演習を行う時間も多いため、研修内容を事前に時間をかけてじっくりと話し合っておく必要がある。
- ③ 野外での研修を工夫して充実させ、より一層、阿蘇の自然環境を生かした有意義な講習会にする必要がある。(アンケート記述)

6 まとめ

全体的には、前期後期ともに、参加者が概ね満足できる内容であった。前期後期ともに、兵庫県立南但馬自然学校の指導主事を招き、「教育課程と体験活動の関連性」と「プログラムの企画・立案」の指導にあたっていただいた。この内容も参加者が小学校の長期自然体験活動の進め方をつかむ上で大変有効であり、本施設職員にとっても、小学校の長期自然体験活動を先行的に行っている兵庫県の取組を知り、今後の施設での指導に生かしていく上でも、有意義であった。また、キャンプ協会やネイチャーゲーム協会の講師による、専門性を生かした「体験活動の指導方法」や「自然体験活動の技術」の指導も有効であった。

今後は、これまでの成果を生かし、より一層本施設の職員が多くの講義や演習を担当しながら、本講習会の充実を図っていく必要がある。また、本講習会で育成した指導者を、小学校の自然体験活動の指導者として積極的に活用していくことで、スキルアップを図りたい。

さらに、これまで以上に九州各県の小学校教育関係者や大学生等に、本講習会への参加を促し、長期自然体験活動の重要性を理解させながら指導者育成を図りたい。

